

つとめんけ！ 第50回記念大会

日程

13:00 舞楽（納曾利）

13:40 開会式

真宗宗歌【3題フルコーラス】

13:45 相続講員物故者追弔会

先	出	仕	
次	総	礼	
次	御	経	仏説阿弥陀経
			経後短念仏止め
次	総	礼	
次	正	信	草四句目下
	念	仏	同朋奉讃
	和	讃	弥陀成仏ノコノカタハ
次	回	向	願以此功德
次	総	礼	
次	退	出	

14:10 挨拶 1) 教務所長

2) 教区会議長

14:20 御遠忌音楽法要曲習礼【三歸依】

14:40 休憩

15:00 講演

16:10 閉会式

挨拶 1) 教区門徒会長
恩徳讃斉唱雅楽団体 澄音会 ががくだんたい
ちよういんかい

澄音会は、明治40年、毎月23日に開かれた有志による練習会が始まりです。当時、宮内省雅楽部の東儀俊竜先生をお招きして講習会を開き、「澄音会」と命名していただきました。以来、今日まで真宗大谷派に僧籍を有する者が会員となり、毎月例会（練習会）を開き、その間、第二次世界大戦中の数年間を除き、毎年夏に宮内庁楽部より笙、篳篥、龍笛の各管の先生方を迎えて講習会を開催し、心技の錬磨に励んでいます。また、昭和36年より、本山「春の法要」「報恩講」等に、大阪、名古屋と交互に「北陸楽僧」として上山参勤しています。

納曾利 なそり

『納曾利』は、雅楽の曲目の一つで、別名『双龍舞』といいます。作曲、作舞、由来は不明ですが、雌雄2匹の龍が楽しそうに遊ぶ様子を舞にしたものといわれ、古くから『陵王』の答舞（先に演じる左舞の対となる右舞）として、頻りに演じられてきました。高麗楽・右方二人舞で、現代に伝わる高麗楽曲の中で最も有名かつ最高傑作とされています。

講師プロフィール ふるたかずひろ

古田 和弘 師

1935年、京都市生まれ。大谷大学教授を経て、九州大谷短期大学学長となる。現在は、大谷大学名誉教授、九州大谷短期大学名誉学長。専攻は仏教学(中国仏教)、特に『涅槃経』を研究する。著書に『涅槃経の教え』『正信偈の教え』(上・中・下)『和讃の教え(上)』などがある。

講題 メッセージ

念仏の衆生をみそなわし

親鸞聖人は「ただ念仏して」と教えておられます。

しかし、さまざまなお経には、仏教の教えに信順するのには、何よりも、戒律を厳しく守り、坐禅などの修行に励むことが大切であるとも教えられています。

それなのに、なぜ「お念仏」なのでしょう。それを、親鸞聖人の教えによって確かめたいと思います。

古田 和弘

